

# 緊急時対応とコスト削減について

令和6年2月

資源エネルギー庁 資源・燃料部

燃料供給基盤整備課

## 2. コスト削減の取り組み

- 国備基地の修繕・点検費用は年間200億円。一般的な合理化に加えて、以下の規制緩和・技術開発の取り組みを実施することで、更に年間5.5億円のコスト低減を実現。但し、抜本的なコスト削減のためには基地の選択と集中が必要。

- 原油タンクの開放点検周期の延長（3.4億円/年の削減）

- 消防庁に安全面のデータを提出して政省令改正を行い、タンクの底部の板厚管理が良好である等の諸条件を満たすことで、通常8年の点検周期を15年に延長。

- 原油タンクの開放点検時の水張り検査の省略化（5千万円/年の削減）

- タンクの健全性のデータを提出して地元消防の承認を受けることで当該検査を省略。工期の1ヶ月短縮に寄与。

- タンク底板溶接部の検査の新技術導入（1.3億円/年の削減）

- 開放点検時に、これまで目視と手作業で実施していた、タンク底板溶接部の検査について、超音波を用いたフェーズドアレイ探傷装置を導入。工期の1.5ヶ月短縮に寄与。

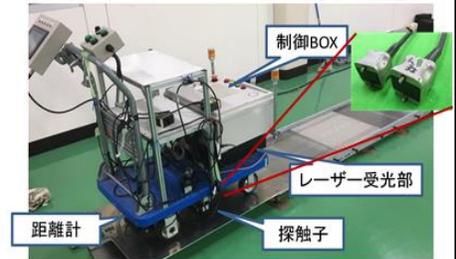
- 上五島基地の洋上タンクのクリーニング作業内製化（4千万円/年の削減）

- 洋上タンクの開放点検時に、外部委託をしていたタンク内クリーニングについて、自社マニュアルの作成や作業の見直しにより内製化することで、コスト削減に寄与。

【原油タンク】



【フェーズドアレイ探傷装置】



【洋上タンク】

